

仕事 の 余白

新年を寿ぐ正月には各家庭でにぎやかに祝いの酒が振る舞われたことだろう。「酒」の楽しみ方には異論もあるが、昨年暮れに宮古名物の「おとうり」に参加させてもらった。「おとうり」は神事に由来するといわれ、祭祀の際にお神酒



を回し飲みしたのが始まりという。

座のメンバーは年齢、仕事、肩書などさまざまである。座の親の口上の後、杯が回っていくのだが、その口上が実に良い。3分ほどの話に起承転結があり、ユーモアがある。口上をリレーする際の仲間のエピソード紹介が温かい。誰もが臆る。子どもたちが喜々することなく、さわやかに口上を述べる。長年の訓練によって培わ

れたのだろう。貴重な教育資源だと感じた。21世紀は表現力がますます必要となる。「おとうり」における口上は、まさに発表力とコミュニケーションの場となる。和ができて、子どもたちが喜々

「おとうり」口上に学ぶ

— 奥 キヌ子 —

まず円座を組み話す場を作る。近況報告や目標、社会情勢など、あらかじめテーマを与えるのも良い。2分くらいで内容をまとめ発表する。座の仲間の話を聞き、言葉の持つ力は大きい。思考が整理され、洞察が深まる。己の不足も知る。ユーモアや知識の交歓がコミュニケーションを深め、連帯感となる。和ができて、子どもたちが喜々

オファーマ社長)